

おはようございます。二学期最後の一週間が始まりました。。

このお休みには、サッカーワールドカップの世界一やお笑い界の一位を決めるイベントなどがありましたね。

今日は、皆さんが二学期を振り返るときの考え方についてお話をします。

西村 徹先生という教育学者がいます。西村先生は若いころ兵庫県養父市^{やぶ}で小学校の先生をしていたそうです。五年生が林間学習で訪れる近くですが、昔の遠足はその字の通り遠くまで足で歩いていきました。

6年生の担任をしていた時、隣町^{いずし}の出石市までの往復24キロを歩く計画をしたそうです。当日の天気予報は、雨模様でしたが、「雨の中の遠足でも学ぶことがあるだろう。」と出発したそうです。途中、やはり雨に降られたそうですが、現地でお弁当を食べるときは青空が見え、子どもたちの楽しそうな笑顔や笑い声があふれたそうです。

さすがに、帰り道は疲れ果てていましたが、全員無事に戻ってきました。「本日の日記を明日提出すること。」を宿題にしたそうですが、「足が疲れた」とか「足が痛かった」などの不満がたくさん書いてあるだろうと思いきや、ほとんどの日記には「けど」がついていたそうです。「足が疲れたけど楽しかった」「足が痛かったけど達成感があった」など24キロメートルを歩き切ったことを、多くの児童が充実感を味わい喜んでいました。

その中の一人の児童は、「けど」を使わず「家に帰った時に『今日一日、ありがとう』という気持ちで足にお礼を伝えた」と書かれていたそうです。

さあ、みなさんもこの二学期にたくさんのことがあったと思います。その中でも、大変だったことや嫌だなあと思ったことについては、「…けど、〇〇〇」ということを考えてほしいなと思います。

急に寒さが厳しくなっています。今週末からの冬休みを元気に有意義に過ごせるように、準備のための一週間として過ごしてください。

以上